

# 第1学年国語科学習指導案

令和5年11月24日（金）5時間目

世田谷区立松沢小学校

第1学年4組

- 1 単元名 登場人物の気持ちを想像して、「なりきり音読発表会」をしよう  
教材名 「くじらぐも」（光村図書 1年下）

## 2 単元目標

◎内容の大体を捉えたことを基に、登場人物の行動を具体的に想像し、好きなところを選んで音読発表会をする。

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能（1）ク〕
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等 読むこと（1）エ〕

- ・物語を読んで、すすんで内容の大体を捉えたり、感じたことや考えたことを書いて、伝えたりしようとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

## 3 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	・物語を読んで、すすんで内容の大体を捉えたり、感じたことや考えたことを書いて、伝えたりしようとしている。

## 4 単元について

### （1）これまでの学習経験

これまでの物語文では、内容の大体を捉えることを重点化して学習してきた。「はなのみち」では、くまさんが何をしたかについて、叙述と挿絵を結び付けながら読み取った。「おおきなかぶ」では、増えていく登場人物の順序を確かめながら、それぞれの人物がしたことをくるくる絵本にまとめた。「やくそく」では、かぎ（「」）を手掛かりに、それぞれのあおむしが言ったことを正しく読み取ることができた。

### （2）本教材について

本教材は、校庭で体育の授業をする1年2組の子どもたちが、空に浮かぶくじらぐもと会話をしたり、くじらぐもに乗って青い空を旅したりする童話である。児童にとって身近な場面設定であるため、その不思議な世界に興味を惹き付けられ、「自分だったら」と登場人物の行動を具体的に想像しやすい教材である。

これまでの学習で身に付けた、地の文や会話文から登場人物の行動を読み取り内容の大体を捉え

る力を活用し、音読台本にまとめる言語活動を通して、登場人物の行動を具体的に想像できるよう指導していく。

## 5 児童の実態

本学級の児童は、これまでに物語教材「おおきな木」では、叙述と挿絵を手掛かりに人物の気持ちを読み取ってきた。人物がしたことを想像し、同じ言葉が繰り返され展開される場面を捉えながら読み進めていくことができた。「やくそく」では、物語の大まかな構成をつかみ読み進めていくことができた。また、人物のしたことや会話（「 」）を讀みの手掛かりにし、それぞれのあおむしの様子を考えて読み進めていくことができた。

本単元では、叙述を基に、登場人物の行動を具体的に想像することについて指導していく。既習した讀みの手掛かりや、今回新たに学習する音読記号を用いて、想像する力を養っていききたい。

## 6 単元の位置付け

### ■構造と系統 [読むこと一文学的な文章] 光村図書 小学校図書 学習指導書

1年	お話を読む 【やくそく】	○誰が何を言ったりしたかに気を付ける。 ○登場人物になったつもりで、声に出して読む。
	思い浮かべながら読む 【くじらぐも】	○友達と声を合わせて読む。 ○登場人物がしたことや言ったことを思い浮かべながら読む。
	好きなところを探して読む 【たぬきの 糸車】	○お話には、いくつかのまとまりがある。 ○好きなところを選び、書き写したり、場面の絵を描いたりする。 ○声の大きさや読む速さを考えて、音読する。
	読んで感じたことを話す 【ずうっと、ずっと、大すきだよ】	○登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ○感じたことを友達と話すと、お話をもっと楽しむことができる。
2年	お話を確かめる 【ふきのとう】	○登場人物を確かめる。 ○登場人物がしたことや、言ったことが分かる言葉を見つける。 ○絵に描かれていることを手がかりにする。
	あらすじをまとめる 【スイミー】	○人物がしたことや出来事を、短い言葉で書く。 ○書いたものをつなげて、内容の大体を捉える。
	人物がしたことや様子を思い浮かべる 【お手紙】	○お話にある言葉や絵から、人物がしたことや様子を考える。 ○人物が、そのことをしたり言ったりしたのはどうしてなのかを考える。
	人物と自分を比べて読む 【わたしはおねえさん】	○心に残った言葉や文を書き抜く。 ○自分と似ているところや、違うところを考える。 ○自分だったらどうするかを考えながら読む。
	読んで、感じたことを伝え合う 【スーホの白い馬】	○お話のどの言葉や文から感想をもったかをはっきりさせる。 ○友達の感想を聞いて、いろいろな感じ方や考え方がることを知る。

## 7 研究主題に迫るための手立て（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

### （１）タブレットの活用による効果的な音読練習（ＩＣＴの活用）

登場人物の行動を具体的に想像した後、グループで音読の練習をする。その際、音読を録音することにより、録音したものを聞いて、自分で良かった点や改善点などを見付けられるようにする。さらに、第三次の音読台本を修正するときにも、第二次までの音声を再度聞き直したり、新しく録音した音声と聞き比べたりして、よりよい音読台本ができるようにした。

また、音読練習の際には、子供たちの会話文以外を収録した音声データを使用する。そうすることで、児童は子供たちの会話文にだけ、想像したことを含んで音読できるようにした。

### （２）想像をふくらませるための場の設定（視覚化）

１年生は児童それぞれの経験の差が大きいため、登場人物の行動を豊かに想像していくためには、「くじらぐも」の登場人物と似たような体験をさせる必要があると考えた。そこで、音読をするための練習の場に大きくくじらぐもを用意し、そこに向かって音読できるような場を設定した。空に浮かぶくじらぐもに声をかけたり、話したりすることを疑似的に経験させることで、児童にとって、くじらぐもに話しかけるときの子供たちの様子や、声の大きさなど具体的に想像しやすくなると考えた。

### （３）まとめ方（「音読台本」）と一体化させた言語活動の設定（構造化）

第一次では、初めて文章を読んだ後、音読発表会をすることを知らせ、音読発表会のために物語を読み進めながら音読台本を作っていくという見通しをもたせる。第二次の第３・４時を習得に、第５～７時を活用とし、さらに習得を２段階に分けた。第３時では、声の大きさや強弱などの音読の工夫の仕方や記号の書き方を徹底して指導し、第４時からは登場人物の行動を具体的に想像することを合わせて指導していく。段階的に指導することで、１年生であっても読みの手掛かりを基に自力読みができるようにした。

### （４）叙述から気持ちと音読記号を一体化できる全文シートでの読み取り（視覚化）

登場人物の行動や会話などから具体的に想像したことを基に、音読記号を書き込めるように１枚にまとめたことで、叙述を基に音読の工夫を考えたり、検討したりしやすくなることを期待した。

## 8 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式 様々な文学的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
1. 登場人物を見付ける。(②)	1. 「くじらぐも」の登場人物を見付ける。 ・ 1年2組の子供たち ・ くじらぐも ・ 先生
2. 主人公を見付ける。(③)	2. 「くじらぐも」の主人公を見付ける。 ・ 主人公… 1年2組の子供たち ・ 対人物…くじらぐも

<p>3. 場面設定を捉える。(①)</p> <p>4. 初め・中・終わりに分ける。</p> <p>5. 音読を工夫する。</p> <p>6. 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。</p>	<p>3. 「いつ」「どこで」を見付ける。</p> <p>・ いつ… 4 時間目</p> <p>・ どこで…<table border="1"><tr><td>1</td><td>2</td><td>3 (前半)</td></tr><tr><td>3 (後半)</td><td>4</td><td>5 (前半)</td></tr><tr><td>5 (後半)</td><td colspan="2"></td></tr></table> 運動場 (学校) 青い青い空 ジャングルジムの上 (学校)</p> <p>4. 話のまとまり (初め・中・終わり) に分ける。</p> <p>・ 初め (第 1 場面)</p> <p>・ 中 (第 2 ・ 3 ・ 4 場面)</p> <p>・ 終わり (第 5 場面)</p> <p>5. 子供たちの会話文に、音読記号を付ける。</p> <p>・ 大きな声で <u>大</u></p> <p>・ 小さな声で <u>小</u></p> <p>・ ゆっくり <u>~~~~~</u></p> <p>・ 速く <u>=====</u></p> <p>6. 登場人物が言ったことやしたことから、子供たちの気持ちを想像する。</p> <p>・ 登場人物が言ったこと</p> <p>(子供たち)</p> <p><table border="1"><tr><td>1</td></tr></table> 「あのくじらは、きつとがっこうがすきなんだね。」</p> <p><table border="1"><tr><td>2</td></tr></table> 「おうい。」「ここへおいでよう。」</p> <p>「よしきた。くものくじらにとびのろう。」</p> <p><table border="1"><tr><td>3</td></tr></table> 「天までとどけ、一、二、三。」</p> <p><table border="1"><tr><td>5</td></tr></table> 「さようなら。」</p> <p>(くじらぐも)</p> <p><table border="1"><tr><td>2</td></tr></table> 「おうい」「ここへおいでよう」</p> <p><table border="1"><tr><td>3</td></tr></table> 「もっとたかく。もっとたかく。」</p> <p><table border="1"><tr><td>4</td></tr></table> 「さあ、およぐぞ。」</p> <p><table border="1"><tr><td>5</td></tr></table> 「では、かえろう。」「さようなら。」</p> <p>・ 登場人物がしたこと</p> <p>(子供たち)</p> <p><table border="1"><tr><td>1</td></tr></table> たいそうをしていた。かけあしでうんどうじょうをまわった。</p> <p><table border="1"><tr><td>2</td></tr></table> 大きな声でとよんだ。男の子も女の子もはりきった。</p> <p><table border="1"><tr><td>3</td></tr></table> 手をつないで、まるいわになると～ジャンプした。</p> <p>あつというまに、手をつないだまわくものくじらにのった。</p> <p><table border="1"><tr><td>4</td></tr></table> うたをうたった。</p> <p><table border="1"><tr><td>5</td></tr></table> 手をふった。</p> <p>(くじらぐも)</p> <p><table border="1"><tr><td>1</td></tr></table> たいそうをはじめ。 空をまわった。</p> <p>とまった。 まわれみぎをした。</p> <p><table border="1"><tr><td>3</td></tr></table> おうえんした。</p> <p><table border="1"><tr><td>4</td></tr></table> 空のなかをすすんだ。</p>	1	2	3 (前半)	3 (後半)	4	5 (前半)	5 (後半)			1	2	3	5	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	3	4
1	2	3 (前半)																								
3 (後半)	4	5 (前半)																								
5 (後半)																										
1																										
2																										
3																										
5																										
2																										
3																										
4																										
5																										
1																										
2																										
3																										
4																										
5																										
1																										
3																										
4																										

	<p>⑤ まわれみぎをした。 ジャンゲルジムのうえにおろした。 空のなかへかえていった。</p> <p>・地の文</p> <p>④ うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。 空は、どこまでもつづく。</p> <p>⑤ しばらくいくと、がっこうのやねが、みえてきた。</p>
--	---

## 9 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価
一 学習の見通しをもつ	1	「くじらぐも」を読んで、大きなめあてをたしかめよう。		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○題名読みをする。</li> <li>○範読を聞く。</li> <li>○初めて読んだ感想を伝え合う。</li> <li>○単元の目標を知る。</li> <li>○なりきり音読発表会をするために大切なことについて考える。</li> <li>○言葉の意味を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題名からどんな物語が始まるか想像すること。</li> <li>○「登場人物の気持ちを想像して、なりきり音読発表会をしよう」というめあてを知らせること。</li> <li>○音読発表会をする上で大切なことを話し合い、整理すること。</li> <li>○子供たちになりきることが大切であること。</li> <li>○分からなかった言葉について確認すること。</li> <li>○空との距離感がつかめるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇子供たちになりきって音読するために学習していくという見通しがもてるようにする。</li> <li>◇分からない言葉を中心に意味を確認することで、内容理解へとつながるようにする。</li> <li>◇校庭へ場所を変えて本文を読むことで、空との距離感がつかめるようにする。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題名と作者を確認する。</li> <li>○物語の設定を確認する。</li> <li>○長い文章の音読台本を完成させるために、必要なことを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題名と作者を確認すること。</li> <li>○登場人物、主人公、時、場所を確認すること。</li> <li>○場面を分ける必要があることを確認すること。</li> </ul>	
		「くじらぐも」をお話のまとまりで分けよう。		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面に分ける。</li> <li>○物語の大まかな構成をつかむ。</li> <li>○学習の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場면을5つに分けること。</li> <li>○初め・中・終わりを捉えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇挿絵を手掛かりにできるようにする。</li> <li>★物語を読んで、すすんで内容の大体を捉えようとしている。</li> </ul>

<p>二 内容の大体を捉えたことを基に、登場人物の行動を具体的に想像する</p>	<p>3 (習得①)</p>	<div data-bbox="320 159 1428 235" data-label="Text"> <p>「はじめ」の音読台本をつくろう。</p> </div> <div data-bbox="320 253 595 432" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを確認する。</li> <li>○「はじめ」の音読台本をつくる。 (第1場面)</li> <li>○音読台本のまとめ方を知る。</li> </ul> </div> <div data-bbox="320 539 595 831" data-label="Complex-Block"> <p>【音読台本をまとめる手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文（子供たちが言ったこと）に音読記号を書き込む。</li> </ul> <p>         ゆっくり      _____          速く            _____          大きく           _____ 大          小さく           _____ 小       </p> </div> <div data-bbox="320 875 595 958" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○交流の進め方を知る。</li> </ul> </div> <div data-bbox="320 972 595 1270" data-label="Complex-Block"> <p>【交流の進め方】</p> <p>①本文、気持ち、音読記号について交流する。</p> <p>例：（本文）から、（気持ち）だと思いました。だから、（音読記号）を付けました。</p> <p>②音読記号の通りに読む。</p> </div> <div data-bbox="620 253 975 674" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを確認すること。</li> <li>○音読記号を書き込むこと。</li> <li>○声の大きさや速さなどを工夫すること。</li> <li>○子供の会話文にのみ記号を書き込むこと。</li> </ul> </div> <div data-bbox="1000 445 1428 577" data-label="Text"> <p>◇読む速度や声の大きさを工夫して音読をすることで、違いに気付けるようにする。</p> </div> <div data-bbox="620 1339 975 1471" data-label="Complex-Block"> <p>習得①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読台本のまとめ方をつかむ。</li> <li>・交流の仕方を知る。</li> </ul> </div>
--	--------------------	---

<div>4・5 本時 ・6</div> <div>(習得②)</div>	<div>「中」の音読台本をつくろう。</div> <div>○前時の学習を想起し、めあてを確認する。</div> <div>○読みの手掛かりや気持ちの書き表し方を確認する。</div> <div> <div>&lt;読みの手掛かり&gt; (登場人物の行動を、具体的に想像する)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が</li> <li>・したこと</li> <li>・言ったこと</li> <li>・挿絵</li> </ul> </div> <div> <div>【気持ちの書き表し方】</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物が、話すように書く。</li> </ul> </div> <div>○「中」の音読台本をつくる。 (第2・3・4場面)</div> <div> <div>【音読台本をまとめる手順】</div> <div>①黙読をする。</div> <div>②子供たちの気持ちを想像し、書き込む。</div> <div>③子供たちの気持ちに合う音読記号を、会話文(子供たちが言ったこと)に書き込む。</div> <div>           ゆっくり      ~~~~~            速く            =====            大きく          _____ 大            小さく          _____ 小         </div> <div>④気持ちと、音読記号を線で結ぶ。</div> </div> <div>○学習の振り返りをする。</div>	<div>○音読記号を確認すること。</div> <div>○読みの手掛かりや気持ちの書き表し方を理解すること。</div> <div>○音読台本のまとめ方を理解すること。</div> <div>○想像した子供たちの気持ちを書き込むこと。</div> <div>○音読記号を書き込むこと。</div> <div> <div>習得②</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを想像しながら、音読台本にまとめていく方法をつかむ。</li> </ul> </div>	<div>◇音読は大きく分けて4つの工夫があることを確認できるようにする。</div> <div>◇初めは教師と共に読み取り、学習の仕方が定着するようにする。</div> <div>◇叙述や挿絵から、子供たちの気持ちを膨らませることで、根拠をもって音読の工夫ができるようにする。</div> <div>◇前時に習得したことを生かして、少しずつ一人読みができるようにする。</div> <div>★物語を読んで感じたことや考えたことをすすんで書いたり、伝えたりしようとしている。</div>
---	---	---	--

三 好きなところを選んで、音読発表会をする	7 (活用)	「終わり」の音読台本をつくろう。		
		○前時の学習を想起し、めあてを確認する。 ○「終わり」の音読台本をつくる。 (第5場面) ○学習の振り返りをする。	○音読台本のまとめ方を確認すること。 <div>活用 ・習得①②を使って活用を図ること。</div>	◇叙述や挿絵から、子供たちの気持ちを膨らませることで、根拠を基に音読の工夫ができるようにする。 ★場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
	8 (発展)	お気に入りの場面を選んで、音読発表会の練習をしよう。		
		○めあてを確認する。 ○お気に入りの場面を選び、音読台本を完成させる。	○お気に入りの場面を選んで音読発表会をすること。 ○お気に入りの場面を1つ選ぶこと。 ○再度、音読を録音すること。 ○これまでに録音した音声と聞き比べること。	◇台本に音読記号を付け足してよりよい台本にできるようにする。 ◇子供たち以外の文章も読めるようにする。 ◇これまでに録音した音声を再度聞けるようにする。
	9	なりきり音読発表会をして、学習のまとめをしよう。		
		○音読発表会をする。  ○単元全体の学習を振り返る。	○学習を生かして、音読発表会をすること。	◇校庭で行うことで、児童が物語に入り込みやすいようにする。 ★語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。

## 10 価値付けの工夫

教師からの 評価による 価値付け	机間指導	叙述や挿絵から、子供たちの気持ちを膨らませている児童を価値付ける。
	全体共有	どうしてそう思ったのか叙述から考えている児童を価値付けるようにする。
	評価	物語を読んで感じたことや伝えたことをすすんで書いたり、伝えたりしようとしている。

児童同士の 交流による 価値付け	記述を見せ合い、考えを伝え合う。	・叙述を基に根拠を明確にしながら伝えている。 ・自分と違う考えに気づき、加筆・修正することができる。
------------------------	------------------	---

## 1 1 本時の指導（5／9時）

### （1） 目標

登場人物の行動をすすんで想像したり、想像したことを伝えたりすることができる。

### （2） 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまづき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
1. 前時までの学習を思い出し、 本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを 確認すること。	◇前時まで学習した掲示物を活用 して想起する。（全）
「中」の音読台本を作ろう。		
2. 子供たちの行動や会話文から 気持ちを想像し、会話文に音 読記号を記入する。（第3場 面）  <div>じっくりタイム</div> <div> <p>&lt;読みの手掛かり&gt; （登場人物の気持ちを、具体的に想像する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が</li> <li>・したこと</li> <li>・言ったこと</li> <li>・挿絵</li> </ul> </div> <div> <p>【気持ちの書き表し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物が、しゃべるように書く。</li> </ul> </div> <div> <p>【音読台本をまとめる手順】</p> <p>①黙読をする。</p> <p>②子供たちの気持ちを想像し、書き込む。</p> <p>③子供たちの気持ちに合う音読記号を、会話文 （子供たちが言ったこと）に書き込む。</p> <p>ゆっくり      ~~~~~</p> <p>速く              =</p> <p>大きく            大</p> <p>小さく            小</p> <p>④気持ちと、音読記号を線で結ぶ。</p> </div>	○子供たちの気持ちを想像 してワークシートに書く こと。  ○会話文（子供たちが言った こと）に音読記号を記入す ること。	◇気持ちを想像しやすくするた めに、挿絵からなりきる子供に印 を付ける。（全）  ◇掲示物を活用し、読みの手掛か りや、気持ちの書き表し方、音 読台本のまとめ方を確認する。  （全）
3. グループで交流する。  <div>わいわいタイム</div> <div>つけたしタイム</div> <div> <p>【交流の進め方】</p> <p>①本文、気持ち、音読記号について交流する。 例：（本文）から、（気持ち）だと思いました。 だから、（音読記号）を付けました。</p> <p>②音読記号の通りに読む。</p> </div>		
4. 全体で交流する。  <div>なるほどタイム</div>	○想像した気持ちからどの ような音読記号を選んだ かについて交流すること。  ○自分にも取り入れたいと 思った意見は、青鉛筆で加 筆・修正する。	◇音読記号の通りに声に出して読 み合うことで、気持ちと音読記 号が一致しているかどうか検討 し合えるようにする。（全）  ★物語を読んで感じたことや考え たことをすすんで書いたり、伝 えたりしようとしている。
	○叙述や、想像した気持ちを もとに発表すること。	◇叙述から考えている児童や、想 像した気持ちから音読記号を工

<p>5. 自分の考えを見直し、加筆修正をする。</p> <p>つけたしタイム</p>	<p>○自分にも取り入れたいと思った意見は、赤鉛筆で加筆・修正する。</p>	<p>夫している児童を価値付けるようにする。</p>
<p>6. 音読する。</p>	<p>○学習したことを生かして音読する。</p>	<p>◇タブレットの録音機能を使って声を録音できるようにする。</p> <p>(全)</p>

# 1 2 板書計画

とうじょうじんぶつのきもちをそうぞうして、「なりきりおんどくはつびようかい」をしよう

くじらぐも

「なか」のおんどくだいほんをつくろう。

なかがわりえこ

【学しゅうのすすめかた】

① もくどくする。

② 子どもたちのきもちをそうぞうし、かきこむ。

③ 子どもたちのきもちにあうおんどくきょうをかいわぶんにかきこむ。

④ きもちとおんどくきょうをせんでむすぶ。

ポイント

子どものきもちがつたわるおんどくきょうをかくこと。

【おんどくきょう】

・ ゆっくり

・ はやく

・ 大きく

・ 小さく

小 大

【きもちをそうぞうするヒント】

だれが

したこと

いったこと

さしえ

にちゅうもくしてよんでみよう。

きもちをかくときには、しゃべるようにかいてみよう。

本文

↓

【学しゅうのながれ】

① めあてをかくにんする。

② 子どもたちのきもちをそうぞうして、おんどくきょうをかく。

③ グループでこうりゅうする。

④ ぜんたいでこうりゅうする。

⑤ ともだちのよいいけんをつけたす。

⑥ おんどくする。